

41 ジャン・アオジュさん
中国 2008年生まれ



①オーケストラと一緒に協奏曲を演奏し、練習する良い機会だと思いました。

②音楽全体に集中した演奏で、もっと完成度の高い演奏ができればと思っています。

③これからさらに多くのコンクールに参加し、自分のスキルと音楽を向上させていきたいと思ひます。

25 リアン・マガウアンさん
オーストラリア 2001年生まれ



①以前SIMCに出場した友人から、素晴らしいコンクールだと思ひて、良い経験になると思ひたからです。日本に来てみたかったということもあります。

②自分の想ひを、一音一音で聴衆の皆さんに伝えたい。聴く人との対話を大切にしたいのでその時々によって演奏も変わります。予選の客席の皆さんは素晴らしいかったです。

③カリフォルニアからベルリンに移り、9月から大学院で勉強します。ドイツ、ヨーロッパで室内楽などで他の音楽家たちと演奏したい。一人で演奏するよりもたくさんのエネルギーを分けてもらえるからです。

23 的場 桃さん
日本 2007年生まれ



①予選からオーケストラと協演できるコンクールはないと思ひ、そこが決め手となりました。

②オーケストラや室内楽が好きなので、弦楽の伴奏と一緒に弾くのが得意です。男っぽいところがあるので演奏もインパクトの強い演奏が得意です。

③とにかく10代のうちにはいろいろ挑戦したいです。ソロをやりながらも、オーケストラが大好きなので様々な演奏活動をしたいです。留学もしたいけれど最終的には日本を拠点に演奏活動をしたいです。

11 フィオーナ・キサラ・イヨクさん
アメリカ/日本 2007年生まれ



①全てのラウンドでオーケストラと共演する機会があるコンクールはあまりないことと、あまり課題曲として指定されることがないイザイの5番が予選の曲になっていたところにも惹かれました。

②練習の時に一番集中して考えることは、音の美しさや深みをいかに表現していくかです。それから曲をよく理解し、聴く人にどんなことを伝えたいかを考えて弾いています。

③音から何かを「伝える」ことを大事にしていくことと、コンサートをたくさん開くことです。

38 ウー・シーユエさん
中国 1997年生まれ



①SIMCの課題曲は非常に興味深く、各ラウンドでオーケストラと共演する機会があるから。

②情熱とステージでの存在感。

③視野を広げるために、これからももっと多くのコンクールに参加していきたいです。

20 リ・ジンジュさん
中国 2007年生まれ



①SIMCのことはずっと前から知っていました。多くの課題曲でオーケストラと共演できるので、とても魅力的です。

③生涯ずっとステージで演奏し続け、いつも観客と音楽を分かち合えたら、とても幸せだと思います。



<編集後記>

これまでコンクール期間中のインタビュー特別号は表裏の2ページで発行していましたが、今回は対面インタビューに加え、前回第8回で感染症防止対策のため対面インタビューの代わりに実施したWEBアンケートとのハイブリッド方式で、4ページに倍増しました。出場者の皆さん、ご協力ありがとうございました！

発行：第9回仙台国際音楽コンクール 広報宣伝サポートボランティア

[コンクール公式X(旧Twitter)] @sendai_simc

[ボランティアブログX(旧Twitter)] @simc_volblog

問合せ：仙台市民文化事業団音楽振興課(仙台国際音楽コンクール事務局) Tel: 022-727-1872 / e-mail: info@simc.jp / URL: https://simc.jp

SENDAI
INTERNATIONAL
MUSIC
COMPETITION
for Violin & Piano

仙台国際音楽コンクールニュース

コンチェルト

Concerto



第9回仙台国際音楽コンクール
ヴァイオリン部門：2025年5月24日(土)～6月8日(日)
ピアノ部門：2025年6月14日(土)～6月29日(日)

Vol.9-4

(2025.5.29 第9回コンクール関連 第4号)

コンクール出場者の皆さんに聞きました

ヴァイオリン部門編



- ①仙台国際音楽コンクール (SIMC) に出場を決めた理由は何ですか
- ②あなたの演奏の個性や強みは何ですか
- ③今後の目標を教えてください

01 サミール・アグラワルさん
アメリカ 2005年生まれ



①カーティス音楽院で師事している五嶋みどり先生に出場を勧められたからです。

②自分ではわかりません(笑)。ただ予選課題曲のイザイの音楽が大好きでイザイのスタイルを一生懸命学びました。モーツァルトはオーケストラと調和できるように気を付けて演奏しました。

③今後たくさん演奏し、室内楽やソロをやったり、いろいろな形で演奏をしたいです。教えることもしたいと思っています。

28 落合 真子さん
日本 2001年生まれ



①日本で一番権威のある国際コンクールなのでずっと憧れていて、出場したいと思っていました。今回の応募が3回目になります。

②弦楽四重奏を続けていることもあって、周りの音を聴いてそこからインスピレーションを受けて表現する「室内乐的な演奏」が得意かなと思っています。

③ソリストだけでなく、室内楽やオーケストラのコンサートマスターにもなりたいです。いろいろな経験を積んで、豊かな音が出せる、マルチに活躍できる演奏家になりたいです。

05 エリック・チェンさん
アメリカ/台湾 2001年生まれ



①SIMCは、ラウンドごとにオーケストラと共演できるという独自性があるからです。新しい音楽家と出会い、学ぶことが大好きで、また日本以上に楽しい場所はないと思います。

②芸術家、また演奏家として、自分が何者なのかについて、できる

限り正直でいようと努めています。コンサートにおいては、音楽が伝えるべきことに忠実であることが私の目標であり、それが演奏家としての私のアイデンティティだと思います。

③これからも世界中の人々と演奏し、コラボレーションを続けたいと思っています。SIMCのような経験は、その両方を実現できる機会を与えてくれるので、とても刺激的でやりがいを感じます。

18 イ・ジユンさん
韓国 1999年生まれ



③音楽家、そして研究者として、演奏と理論の両方における理解を深めることを目指しています。最近、ジュリアード音楽院の聴音教育フェローに選ばれたことをきっかけに、音楽をより知的かつ総合的に探求し、感情の深みと分析的な洞察力の両方で音楽を表現できるアーティストとして成長していきたいです。

36 ユリアン・ヴァルダーさん
オーストリア 2000年生まれ



①このコンクールに参加することが1つのステップになると思い申し込みました。日本の文化が好きで日本のおもてなしの心、助け合いの精神は素晴らしいと思っています。実際に演奏してみても、聴衆の皆さんがフレンドリーで温かく迎えてくださり、会場の雰囲気がとても良かったです。

②コンクールのように制限がある中での演奏というよりコンサートの中で、音楽の背景にある意味を伝える演奏、聴衆に伝える表現力だと思っています。

③私の夢は、ソロで演奏したり、オーケストラの中で演奏し、音楽を通して自分のメッセージを世界に伝えていくことです。自分の知識を伝えることにも興味があるので、将来的に指導者になって、お互いに高めあっていければいいと思っています。

15 キム・ハラムさん
韓国 1998年生まれ



①友人が過去にSIMCに出場しており勧められました。日本に来てみたかったこともあります。

②ヴァイオリンだけでなく声楽や作曲など、音楽が好きでたくさん勉強しています。それらが力になって、音楽に調和していると思います。

③やりたいことがたくさんあり、自分がどこにいるかはまだ分かりません。教えることもしていますが、指導者になると決めたわけではありません。どうしたら人々の心を動かせるのだろうか、ということが大事だと思っています。ヴァイオリンの演奏者であれば、まるでオーケストラのようにさまざまな音を表現できるようにになりたいです。

16 キム・ヒョンジさん
韓国 2000年生まれ



①予選からオーケストラと演奏できること、最高位入賞者には日本での演奏の機会やCDの制作があることが魅力的だからです。

②安定的な演奏をする方だと思います。

③ソロ、アンサンブル、オーケストラ、どのような形でも演奏を続けていきたいです。

32 ヴィクラム・フランチェスコ・セドーナさん
イタリア 2000年生まれ



①全てのラウンドでオーケストラと演奏できることと、ラウンドごとにソロ、指揮者あり・なし両方の協奏曲、コンサートマスターと、違うポジションで演奏できることが魅力的だったから。

②言葉の代わりに、音楽を通して人とコミュニケーションを取ることが自分にとって意味のあることだと思っています。

③善き人でありたいです。

40 吉本 梨乃さん
日本 2003年生まれ



①日本で行われる大きなコンクールなので、ずっと出場してみたいと思っていました。予選からオーケストラと共演でき、コンマスとして弾けるのも魅力のひとつです。課題に自分の好きなモーツァルトがあることにも心惹かれました。

②聴いてくださった方からは、元気やエネルギーをもらえと言われます。ライブでしか味わえない音楽の美しさや楽しさを伝えたいです。

③14歳から滞在しているヨーロッパを拠点に活躍していきたいです。

27 ミヒヤエル・ノーデルさん
ドイツ/アメリカ 2002年生まれ



①前回出場した友人からの紹介です。課題曲がユニークでコンマスとして演奏することはほかのコンクールではないので出場を決めました。

②私の演奏は人の心に届くと思いますが、一方でまだ多くの課題もあると思います。

③いつまでもヴァイオリンをうまく演奏していること。お気に入りの街で良いオーケストラか良い仕事に就くことができればと思います。

13 ジュリア・ジョーンズさん
アメリカ 2004年生まれ



①予選からオーケストラと共演できるコンクールはなかなかないので、それが一番の理由です。

②今回のコンクールで言うと、イザイとモーツァルト、独奏と室内楽との共演のように違うスタイルの音楽の持ち味を表現することが得意です。

③最終的にはオーケストラに入りたいけれど、あまりこだわらず、ソロや室内楽など自由に演奏活動をしていきたいです。また、どのような形でもヴァイオリンは続けていきたいです。

9 ジナ・ケイコ・フリージケさん
ドイツ 2002年生まれ



①予選でオーケストラと共演できることと、全員同じ曲で審査されることが特別だと思いました。また母が日本人なので、日本に行ける機会があればできるだけ行きたいと思っていました。

②作曲者の意図にフォーカスし、作品に込められた感情を表現できると思います。

③たくさんの人と出会いをヴァイオリンの上達に繋げて、音楽をより良く表現できるようになりたいです。

19 レイ・ハイルイさん
中国 2005年生まれ

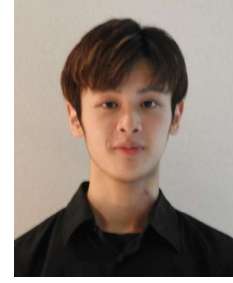


①数年前、このコンクールのことを聞き、中国人ヴァイオリニストのホアン・モンラ氏が第1回コンクールで1位になり、さらに審査委員を務めていることを知り、自分も出場したいと思いました。また、日本に来るのも初めてで、いろいろ経験したいと考えました。

②こうあるべきという演奏スタイルではなく、自然な感じで演奏するようにしています。

③ソリストとして活動し、オーケストラと共演したいです。

24 松木 翔太郎さん
日本 2007年生まれ



①去年、応募できる大きなコンクールがないかを調べ、仙台のコンクールは代表的なコンクールであることを知っていたので挑戦しました。

②男性らしい元気な演奏が強みだと言われます。聴いている方に元気を届けられたらと思っています。

③去年高校に入学しましたが、留学するかどうか悩んでいます。ソロの勉強をしっかりとって、自分にしか出せない音を追求したいと思います。

34 シーバース・エマニュエルさん
日本/アメリカ 2002年生まれ



①教わっている先生がスズキ・メソードのレッスンで日本に教えに来ていて、その先生を通してコンクールに出場することを決めました。母が日本人、父がアメリカ人で10歳まで東京に住んでいたため日本語も話せます。

②オーケストラと一緒に演奏することが好きなので、このコンクールではオーケストラと演奏する機会が多く、共演を楽しみたいと思っています。

③国際音楽コンクールに出場するのは今回が初めてなので、今回の出場を今後コンクールに出場するためのステップとしたい。まだ大学に在学中なので卒業に向けてしっかり勉強したいです。

07 ヴィルモシュ・チコシュさん
ベルギー/ハンガリー 1996年生まれ



①子供の頃から「NARUTO」など日本のアニメが大好きで日本に来ることを夢見ていました。また、審査委員長の堀米先生に師事していることもあり、仙台のコンクールに出たいと思っていました。

②普段はテクニックよりも感情の流れを伝えることを大事にしています。コンクールではテクニックも大切ですが、それ以上に曲を理解し、創造性を表現することに重点を置いています。

③1つめはオーケストラとの共演を含めたソリストとしての活動、2つめは室内楽の演奏、3つめは音楽大学で教えることです。古典から現代までいろいろなジャンルの曲を弾きたいし、あまり知られていない作曲家の作品も紹介したいです。